

すべてのこどもに自然を!プロジェクト

自然との豊かな体験が子どもの心身の成長を促すことは広く知られています。また、子どもが大人になった時にも気持ち良い社会・自然環境（持続可能な社会）で暮らしていくためには幼少期の自然の原体験^{※1}が鍵になります。

しかし、子どもの自然体験は低水準に留まってしまっています。また、家庭の境遇による自然体験格差ができてしまっています。そこで、日本自然保護協会（以下、NACS-J）では家庭の境遇に関わらずすべての子どもに自然の原体験を届けることを目指したプロジェクトを実施しています。



※1 原体験とは、人の生き方や考え方に大きな影響を与える幼少期の体験のこと。例えば海の近くで育ち毎日のように磯で遊んだのが楽しかったため「美しい海を守りたい」と思う人がいたり、親から絵を褒められてとてもうれしかったので画家を目指す人がいたり、といった形で誰も様々な形で持っているものです。

子どもの自然とのふれあいの現状

◆全国的に子どもの自然体験は低水準

子どもの自然体験はなかなか増えておらず（図1）、子どもの身近な自然とのふれあいは年々少なくなっています（図2）。地方でも、子どもの自然体験は都市部と大差がないようです（図3）。今の子ども達は、シニア世代や親世代の幼少期よりも自然に触れにくい環境に置かれているのです。

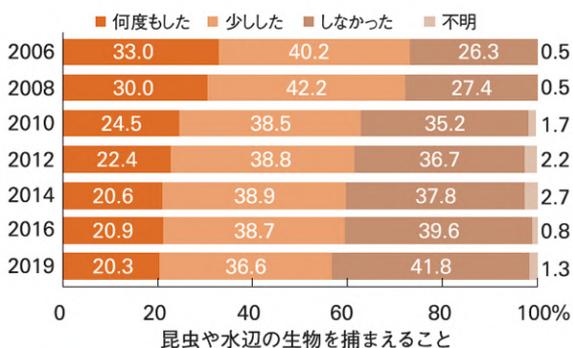


図1：小学生が学校外で1年間に行った自然体験

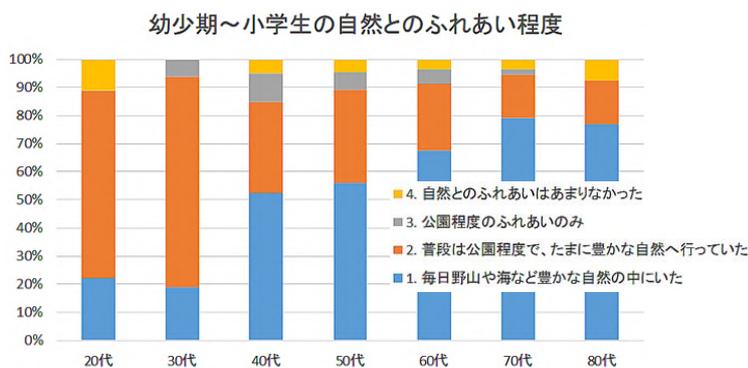


図2：2016年度の当会自然観察指導員活動調査より

（国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査(令和元年度調査)」より）

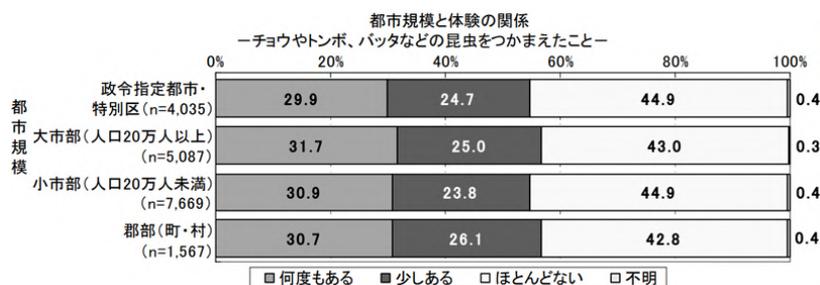


図3：「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」（平成22年度調査）より

※小学生、中学生、高校生のアンケート結果をまとめたもの



◆家庭の境遇の格差が子どもの自然体験の格差を広げています

日本では、教育格差や貧困の連鎖は大きな社会問題になっています。幼少期の自然体験も、子どもの自己肯定感や学力に影響する要素の一つですが、自然体験についても、年収が低い家庭程で少なくなっています。「子どもに自然体験をさせたい」と思っても、経済的な原因に限らず、余裕がない家庭で難しいことは想像に難くないでしょう。

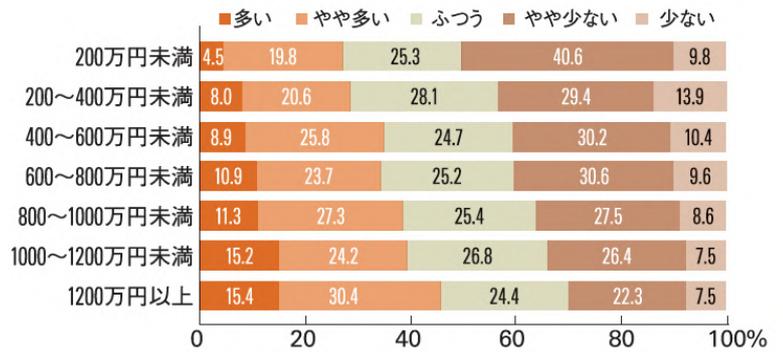


図4：世帯収入と子どもの自然体験の関係

国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査」（令和元年度調査）の図を改変

◆幼少期の自然との付き合い方が将来の暮らしに直結します

私たちの暮らしは自然の恵みが土台になっていますが、今その土台は海洋プラスチックや気候変動などで揺らいでいます。NACS-Jでは幼少期に五感を通して自然のしくみを体感的に理解していることが持続可能な社会を創るのに欠かせないと考えています。実際に、自然保護に根差した行動をする人は、そうでない人より幼少期の自然体験が豊かな人が多いことがわかっています。また自然保護活動者に話を聞くと、中学生～新社会人時代に自然とは縁遠い生活をしていても、小さい頃に自然の中で過ごした楽しい思い出がきっかけとなって、活動を始めた方がとても多く、幼少期の自然の原体験の重要性を強く実感しています。

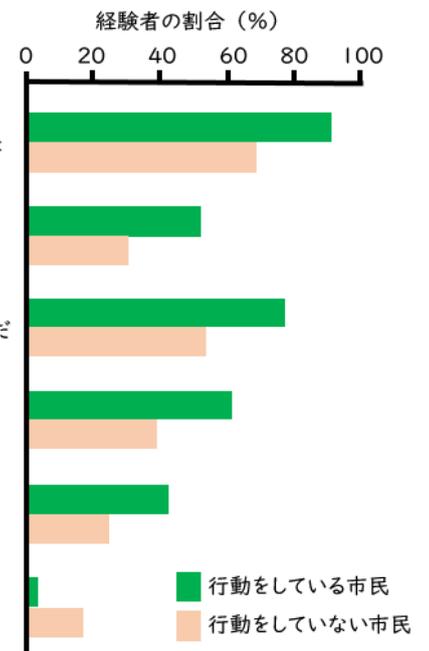


図5：自然保護の行動をしている市民と、そうでない一般の方に聞いた、幼少期の頃の自然体験

心身の育ちを促し、持続可能な社会にもつながる、
幼少期の自然との豊かな体験を、すべての子どもに届けたい



プロジェクトの内容

NACS-Jには、自然の魅力を伝えたいと願う、自然観察指導員の仲間が全国に約8000人います。このプロジェクトは、全国の自然観察指導員と一緒に下記のような活動を広めていくことを目指します。

自然観察指導員との活動を希望される園や団体、企業等の方はぜひお知らせください。

1. 乳幼児に届ける

全国ではたくさんの子ども向けの自然体験プログラムが実施されていますが、未就学児向けのもは限定的で、3歳未満児が参加できるものはさらに少なくなっています。乳幼児期は外の情報をどんどん吸収し自我を形成する時期であると同時に、粘り強さや主体性といった非認知能力が育つ大事な時期です。すべての乳幼児に届けるべく、多様な家庭が利用する「保育園・こども園」を中心に届けることを目指し、取り組みます。



①保育園やこども園等に自然観察指導員が出向いて自然観察・体験を行う
自然観察指導員が園に出向き、外遊びやお散歩に同行し、園児さんの自然観察や体験を支援します。一部地域で2022年から試行をはじめて徐々に全国に拡げていく予定です。



②現役保育士や幼稚園教諭の方、また保育士・幼稚園教諭を目指す学生さんへの研修

NACS-Jが長年の教育活動で養ったノウハウや、身近な自然との接点をもっと保育や教育に活かせるコツをお伝えします。学生さんについては、養成校との共催で講習会を開催していきます。

上記を全国で実現すべく、指導員向けの研修会や、乳幼児との自然観察会基礎テキスト作成をすすめています。

2. 小学生に届ける

自然観察指導員による小学生との自然観察会が各地で活発に行われています。今後さらに多くの小学生に届けられるように、下記を実施していきます。

①小学校や団体・企業への自然観察指導員の紹介

②多様な場との出会いの支援

こども食堂や養護施設、フリースクールといった、様々な子どもが集まる場に指導員が出向く支援も実施予定です。



上記を全国で実現すべく、自然観察指導員向けの研修会や活動支援を行っていきます。

ご参考：本プロジェクトでは「既存の自然観察会には参加しにくい方々」にも届けるためにあえて年齢や場を設定していますが、自然観察指導員は「いつでも・どこでも・だれとでも」自然観察会をしよう」を合言葉にしています。自然に触れ、楽しみ学び、人の輪をつくったり、自然保護活動したりすることは赤ちゃんからお年寄り、からだの不自由な方もそうでない方もあらゆる個性の方と一緒にできます。

自然観察指導員のご紹介

自然観察指導員は、NACS-Jが1978年から養成している自然観察会・自然保護のリーダーの登録制度です。養成講習会を修了した上、NACS-Jが発刊している情報誌や、各地の研修会で研鑽を積んでいる人達です。何十年も実践と研鑽を積んだ自然観察指導員もいます。

全国で3万人以上が登録され、現在約8000人が継続登録し全国で活動しています。地元の自然を保全しながら、自然の不思議や魅力を人と共有し、自然を大切に思う人を一人でも多くするべく、自然観察会を各地で開催しています。自然観察指導員は年間でのべ130万人に自然観察の機会を提供していて、自然を人に効果的に共有する技術や、持続可能な社会を創る際に欠かせない「人も含めた自然のしくみ」について、体感を通して学ぶ方法を習得しています。

NACS-Jの職員ではなく、自然を人に伝えたり、自然保護の志を共にする仲間として自主的に全国で活動をしています。

自然観察会というと偉い先生が解説し、勉強をするというイメージを持たれる方もいらっしゃいますが、自然観察指導員は参加者の発見・体感を重視した自然観察会を実施しています。



自然観察指導員の開催する自然観察会の主な特徴

体験第一解説は二の次

五感で自然を参加者自らが発見していく支援

先生は指導員ではなく自然そのもの

参加者と自然の間に立つのではなく、参加者の後ろに立ってそっと背中を押す

答えはできるだけ言わず、観察や興味が深まる質問をする

個性は多様な方が豊かな時間になる

活動中は自然より参加者を観察してちょうどよい

いつでも・どこでも・だれとでも自然観察会

自然に学び、参加者に学び成長する

自然を人も含んだしくみとして捉えて観る



—————お問合せ先—————

公益財団法人 日本自然保護協会 市民活動推進部 すべてのこどもに自然を！プロジェクト担当

TEL:03-3553-4101 FAX:03-3553-0139 メール:kansatsu1978@nacsj.or.jp

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F